

## 2018(平成30)年度－2020(令和2)年度 論文題目一覧

### 2018(平成30)年度

#### 博士論文

高田 映介 世界の瞬間 —— チェーホフの詩学と進化論

#### 卒業論文

辻井 麻莉 ミハイル・ブルガーコフ『巨匠とマルガリータ』における月の機能について

### 2019(令和元)年度

#### 修士論文

石川 侑希 ベトロフ＝ヴオトキンの絵画空間 —— 『戦いの後』(После боя)を中心に

王 崎崎 チェーホフのドラマトゥルギー —— 空間表現をめぐって

ダリヤ・リシコワ ストルガツキー兄弟のSF小説における構造とアイデアの分析

#### 卒業論文

大谷 美結 1870－80年代のイリヤ・レーピン作品について —— 《ヤイロの娘の復活》と《ヴォルガの舟曳き》の共通性および《皇女ソフィア》と《イヴァン雷帝とその息子》における人物表現

牧 直利 エイゼンシュテインの表現法に見られる帝政期映画の影響

山本 悠太朗 チェスワフ・ミウォシュの詩集『世界』における子供の体験について —— 父親・母親・子供の視座に注目して

### 2020(令和2)年度

#### 修士論文

邱 晶晶 ロシア文学と中国文学の「余計者」について —— ツルゲーネフと郁達夫を中心に

田村 太 サヴィンコフ『ローブシム』を読む —— 銀の時代における自伝的言説と『蒼ざめた馬』

ニコライ・ヴォルコフ ゴーリキーと20世紀前半の日本文学 —— 有島武郎を中心に

深龍 雄太 ニコライ・レスコフ後期作品の分析 —— 「クリスマス物語」を中心に

#### 卒業論文

荒木 孝太郎 ゲルツェン『向こう岸から』論

鈴木 淳平 チェーホフのメリホヴォ時代 —— 『中二階のある家』を中心に